

～住民参加型高齢者等生活支援推進事業～

「和寒町の地域を支えるための意見交換会」の結果報告

国は、これまでも社会状況の変化に伴いさまざまな社会保障制度改革を実施してきましたが、依然として少子高齢化は進行し、年金、医療、介護等の社会保障給付は高い水準となり、制度自体の持続可能性が危ぶまれるため、新たな社会保障制度改革が実施されることとなりました。

これに伴い、介護保険制度は平成27年4月から大きな改正がおこなわれることとなります。和寒町では住み慣れた地域で暮らし続けていくために、住民ひとりひとりが自分たちの町について考え、目指す姿を共有し、確認していくことを目的として住民参加型高齢者生活推進事業を実施しました。

■事業実施の流れ

住民参加型高齢者生活推進事業

[事業をおこなうに当たって大切にしたこと]

- ◇作り手ではなく、使う人（住民）の理想や必要としていることを大切にしたい！
- ◇住民と一緒に地域づくり実現していきたい！

●和寒町の地域支え合いを考える講演会

平成26年7月15日 参加者81名

- ・報告「和寒町の現状について」
報告者① 和寒町長 奥山 盛
報告者② 和寒町内各介護サービス事業者
- ・講演「高齢社会和寒町を活力ある地域に」
旭川大学保健福祉部コミュニティ福祉学科 林 芳治 教授



町長からは和寒町の高齢者を取り巻く状況と今後の施策について、町内各介護サービス事業者からは事業所の取り組み内容を報告していただきました。また、林教授からは住民自身がアイデアを出し合って町を作り上げていく時代にあることをお話しいただきました。

●和寒町の地域を支えるための意見交換会（5回開催）

意見交換会に参加してくれた方 ～ 59人

第1回 平成26年8月5日 参加者48名

- ・テーマ『和寒の良いところと無くしてはいけないもの』

町民の人柄や地域のつながりの良さ、災害も少なく自然が豊かであること、福祉の充実、公共施設の充実、道路・交通機関の充実などが出されました。



第2回 平成26年9月2日 参加者41名

- ・テーマ『良いところを踏まえ夢と理想を描く』

町民同士の“つながり”を大切にしていきたいとの声が多く聞かれ、そのためには安心して暮らせる環境、楽しみや生きがい、元気なまちが必要であるとの意見が出されました。



第3回 平成26年9月30日 参加者44名

・テーマ『現実を見据え和寒の課題とあったら良いもの』

町民が気軽に集まれる場がない、地域のつながりが昔より弱くなっている、各サービスが分散している、元気な高齢者が力を発揮する場がない、買い物や除雪や外出に不便を感じる等といった課題から“交流・つながりづくり”“生活支援”を中心とした話し合いが多く聞かれていました。



●先進地視察 平成26年10月20日 参加者16名

1) 旭川神居5の3老人クラブ

健康チェックや脳トレ、体操、食事、お楽しみ行事等を企画し、参加者同士で協力し合いながら実践している様子を見て感銘を受けました。

「自分たちの老人クラブにも取り入れて活動したい」(参加者談)



2) わかち愛もせうし(妹背牛町)

農協跡地を集いの場として活用し、週1回は日替わり弁当やコーヒー(有料)の提供をしている様子を見て、交流の場づくりを学びました。



住民が作ったキャラクター

第4回 平成26年10月28日 参加者47名

・テーマ『課題を踏まえ住民・地域ができる事、その他にゆだねる事』

「誰でも気軽に集える場」「生活のちょっとしたお手伝いができる環境・人」があれば良いという声が多く出ました。その中で既存の物の延長でできないか、買い物の手伝いや独居の方への声かけは自分でもできそう等の声も多数聞かれました。



第5回 平成26年11月12日 参加者43名

・結果集約



「地域や身近なところで、自分たちができることから始めよう」ということになりました。その上で、まずは「誰でも気軽に集える場」「生活のちょっとしたお手伝い」の2点について、計画の方向性としました。



■今後の予定

●意見交換会で出された意見をもとに準備を進めていきます。

課題はありますが、協力いただける方々と協議をしながら平成27年度の実施を目指します。

●意見交換会報告会の実施

平成27年3月予定

事業終了後、恵みヶ丘自治会では既に発起人会が開催され、自分たちの手で「集いの場」を作り始めています。地域包括支援センターは“住民が主役”でおこなう地域づくりを積極的に応援・協力します！



■お問い合わせは 地域包括支援センター(保健福祉センター内) : 電話32-2000まで